

神奈川県立あおば支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立あおば支援学校第3回学校運営協議会		
開催日時	令和5年10月16日(月) 午前9時30分～午前11時30分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：10名 事務局：7名		
次回開催予定日	令和5年12月16日(月) 午前9時30分～午前11時30分		
問い合わせ先	神奈川県立あおば支援学校 副校長 佐藤 浩栄 電話番号 045-978-1161 ファックス番号 045-978-1160		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>1 開会(学校長)</p> <p>(1) 学校長挨拶</p> <p>(2) 日程、協議内容の説明</p> <p>(3) 学校運営協議会 協議</p> <p>○第2回学校運営協議会・職員研修についての総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議記録(模造紙)の掲示を見学 ・各部会の記録まとめ資料参照 ・各委員からの感想・意見 <p>A) 改めて熟議の内容を見て、このために学校運営協議会がある、と感じた。</p> <p>B) 地域との協働、地域の方に知ってもらうこと、障害理解など、様々な意見があった。</p> <p>C) 学校の中での縦のつながり、A部門とB部門のつながりなど、先生方からも様々な意見があがっていた。</p> <p>D) 開校から何年か経って、開校当時の想定からだんだんクローズアップされてきた。教員が自分事として捉え、気づき、課題が見えてきた印象。これから始まっていくのかなと思う。</p> <p>E) 先生方の変さを感じた。何ができるのかを考えると、様々なつながりが必要なのだと感じる。しかし、場所と人の問題が解決されない。もう一工夫できないか、と思うがなかなかうまくいかない。</p>		

	<p>F) 保護者の切実な思いを聞くことができた。区としていろいろやっているつもりでいたが、伝えきれていなかったということが分かった。集まって話すことの大切さを知った。</p> <p>G) 熟議には参加できなかったが、みんなで考えることの大切さを感じた。自分で考えを発信することが大事。地域の中では小学校から中学校へのつながりも大事。いろいろ必要なことはあるが、なんでも取り入れることはできない。何を優先するか順序を考えることも必要。</p> <p>H) 卒業した後にはどのような支援ができるのかという話題になった。私の大学のゼミ生にも兄弟に障がいがある生徒がいる。卒業した後どうするのが課題という話をよく聞く。最後は保護者のパワーが重要になってくる。保護者の方が中心になって立ち上げた NPO 等を学校が支援するという形もある。</p> <p>I) 学校の中でどういう課題がでているのか、家庭の中ではどうか、地域としてできることなど話し合った。すぐできること、来年だったらできること、将来に向けてこんな風にやったら面白いねということ、うまく分析して表にまとめていただいたと思う。</p> <p>校長) 昨年度に比べると成熟した熟議ができた。参加した先生達も感覚もずいぶん変わったと感じる。ここで話したことをどれだけ実現していくかが重要。実現できないにしても協議したことを先生方にフィードバックしていくことが大切。そうすると来年度の熟議につながっていく。すぐできることに関しては学校評価にもつながっていく。この後、学校評価について報告させていただくが、協議した内容の中に評価につながっているものも多いので、関係者評価として意見をいただきたい。</p> <p>J) 皆さんのお話を一つ一つうなずきながら聞いていた。地域と学校だけではなく学校の中での相互理解が深まったのではないかと。高等部の先生と小学部の先生がゆっくり話すことは少ないと思う。最終的に熟議の目的は、自分事にするということ。学校運営は管理職がやると思っていたらうまくいかない。学校運営協議会のメンバーも保護者も先生方も、みんなそれぞれの立場で学校運営にか</p>
--	---

	<p>かわるということが熟議をすると深まる。</p> <p>今回、先生は忙しいということがわかった。地域の方がそこに気が付くことはすごく大きなこと。そして保護者のパワーがすごく必要。学校が全部引き受けることはできない。学校協働本部や保護者の力を集結することが大切だと思う。</p> <p>模造紙に、すぐできること、来年できること、将来の夢が整理されている。先生方からも、もっと強調したいとか、付け加えたいとか、これはちょっと違うという意見があると思うので、それぞれの業務分担の中で検討してもらえたら良いと思う</p> <p>K) では、それぞれの部会から出た意見、さらに深めていきたい。</p> <p><切れ目ない支援部会について></p> <p>L) 自分は社会福祉士だが、先日、意思決定支援のシンポジウムがあった。学齢期からの意思決定の積み重ねが将来重要になってくるという話があった。「コミュニケーション」「支援を受け入れられる力」「愛される力」は意思決定につながっていく。特別支援学校の子どもは、卒業した後も自分で決めることはなかなかできない。個人として自立して生活していくためには、自分で決めること、自分で決めることができなくても色々な人と関わって選択していく、全部保護者が決めるのではなく先生も一緒になって選択していく経験をするのは学校にいる間だからできることだと思う。保護者がすごく抱えている印象。保護者がわき役になっていくことが最後のゴールだと思う。「支援を受け入れられる力」というのは、本人はもちろんだが保護者の理解も必要。</p> <p>M) ちょっと宣伝をさせてほしい。先日、区の基幹相談支援センターが主催で、当事者・ご家族向けの権利擁護研修で意思決定支援についての収録を YouTube で行った。内容は障害者支援センターの職員さんがコメンテーターで、当事者として親御さんが 2 名参加し、意思決定のためにどういう取組みをしてきたかという話が聞けた。意思決定というと何かを決めるということだが、経験をし</p>
--	---

	<p>て選択の幅を広げていくこと。11月17日以降にYouTube配信される予定。</p> <p>N) 地域の方が授業に入るコーディネートをさせてもらっている。ボランティアを続けている方と先日話す機会があった。子ども達と交流することは、子ども達が卒業した後(の社会で)、私たちは必要とされていると思ったと話されていた。すごいなと思った。地域の人や保護者が当たり前に学校に入ってくるようになれば、地域と学校が融合していく。知ってもらおうということは、意思決定だったり選択肢を増やすことだったりにつながる。</p> <p>O) コロナでなかなか出入りが難しかったが、子ども達は学校の中でいろいろな人に出会ったり経験を積んだりしている。保護者の方も見てみたいと思いつつも制限があったが、今後さらに広がると良い。</p> <p><地域連携部会について></p> <p>・災害時の安心安全について</p> <p>校長) 本当は防災関係をすぐやりたいと思っていたが、横浜市とのニーズの調整がうまくいかないということがあって先送りになっている。福祉避難所として本校のニーズがどれだけあるのか。水没地域であることもある。どういう状況の時に、どういう方のために役に立てるのか協議しているところであるが煮詰まっていけない。</p> <p>P) 福祉避難所に関しては、前から話題になっていたが、今回、熟議に出てくれた方の部署と進めていけばよいのか？</p> <p>Q) 福祉避難所については高齢障害支援課が窓口。今回は都合が合わず参加していない。</p> <p>校長) すでに高齢障害支援課と話しているが、現実的に、どういう形で本校が地域のために役立って行けるのか。ニーズを確認したうえで本校として受け止めていけないといけない。</p> <p>R) 区役所と学校だけでは決まっていけない。ミニワーキンググループとか連絡会を作らないと難しい。区の担当者も他の仕事もある中で、ゆるやかに情報交換していかないと埒があかない。つなぎ役をお願いしたい。</p> <p>校長) 自治会の防災のグループに、私も参加している。地域と</p>
--	--

	<p>のつながりを作っていきたいと思っている。地域の人のニーズを把握していきたい。</p> <p>S) 情報交換を個々でやっても難しい。一堂に会して話す機会がないと福祉避難所検討まではいかないだろう。すべてを解決できなくても、何か一歩が進めばよい。合間をぬって一緒にできればよい。</p> <p>・登下校の交通安全について</p> <p>校長) スクールゾーン協議会について知りたい。</p> <p>T) 小学校ではスクールゾーン協議会があったが、4年間在籍していたがコロナ禍になり最初の1年しかできなかった。中学校ではない。</p> <p>U) スクールゾーン協議会は小学校でやっている。保護者から、この地域は危ないとかここを直したいとか色々な意見がたくさん出てくる。困るのが、警察と道路管理者との垣根。例えば、信号をつける、白線を引く、これは県の公安委員会の仕事。白線が薄くなったから直してほしいと思うと県警の仕事。舗装を直すなら土木事務所になるなど管轄が分かれており、間に挟まれて遅い。</p> <p>V) 特別支援学校はスクールバスで通うので地域のスクールゾーン協議会に入れない。高等部の生徒は自力通学の生徒も多いのに、協議にすら入れないという現状。「スクールゾーン」という表示もしてもらえない。</p> <p>W) スクールゾーン協議会は小学校単位なので、中学生の夜間あぶないところも対象ではなかった。あおば支援学校スクールゾーン協議会を立ち上げたらどうか。それが可能だったら、あおば支援学校の子どもの安全を協議する中で、関連する中学校や町内会などにも入ってもらおう。どこかの協議会に入らないとできないとなるとハードルが高い。独自で「スクールゾーン」として認められるなら、それがよいのではないか。</p> <p>校長) 例えば、地域連携部会の中でスクールゾーン協議会の話がすれば、新しく会議を立ち上げなくてもよいのではないか。そのために、区に相談をさせていただき、必要な方に声をかけていただきたい。</p> <p>X) 警察を入れないと進まない。市に声をかけてみるが、警察も入れるとなると詳しくない…。</p>
--	--

	<p>Y) 問題の場所を改善するとすれば、支援学校の中でもそういう協議会を作っていく。ただ、支援学校は広域だから町内会に入りきれない。学校の近くの小学校の協議会に意見を申し上げて、そこで取り上げてもらうのが早いと思う。</p> <p>Z) 基本はバス停から学校までの通学路。危ないのは小学校エリアからあおば支援学校までのところ。信号機がないところを渡る、歩道がない。部会で課題をしっかりと煮詰めて、どこにアクションしていくとよいのか検討する。</p> <p>校長) 課題を整理して、県警に働きかけていきたい。</p> <p><地域学校協働部会について></p> <p>A) スポーツフェスタ、あおばフェスタ等の在り方や時期について話し合った。</p> <p>B) 保護者の参加、関わり方が話題になっていた。地域の方もフェスタに参加できるのかという声もある。どうやって学校を開いていくか。</p> <p>C) 保護者の方がコロナで制限されて最低限しか関われなかった。先生方がその分、負荷がかかっていたのではないかと。全て先生方がやらなければならなかった。通常業務もある中で、一大行事を二つやることは、かなりの負荷だと思う。ある地域の例だが、3つの小学校と1つの中学校が一つの学園構想の中で、毎月、集まって行事をやっていた。だんだん教員の負担になっていった。何のためにやっていたのかを振り返ったところ、一体感をつくるために大きな行事をやっていた。もう一体感はできたので、思い切って廃止した。学校運営協議会は仕事を増やすではなく、スクラップして何が本当に必要なのか見直すことが大事。子どもにとってどうなのか、学校にとってどうなのか考えていく。</p> <p>D) あおば支援学校を立ち上げる時に学校行事をどうするのかを議論してきた。歴史は繰り返されるというか行事については必ず不要論が出てくる。かつては運動会、文化祭とあったが、隔年にしようとか運動会を廃止してきた経緯がある。そもそも論になるが、学習指導要領に学校行事は位置付けられている。いるいない議論は不毛である。それぞれの行事を何のためにやるのかをしっかりと</p>
--	--

	<p>押さえていく。文科省も先生達の多忙論の中で、行事をどうしていくかが議論されているが、先生達が忙しくなってしまう原因と行事をやるやらないは本来的には議論は別のこと。保護者、地域の力をどうやって生かしていくか、先生達がやらなくても済むことは地域の方をお願いしたいと思って計画してきた。</p> <p>E) そういった思いで地域と一緒に学校行事を立ち上げられてきた。協働は五分五分でなくてもよい。あるときには7 : 3だったり、やり方とか役割や協働の在り方を考えていくことができるとよい。</p> <p>校長) 11月2日、3日のあおばフェスタがあるが、目的は「子ども達の学習発表」と「地域との協働」である。今年初めて、何の規制もなく保護者も参加できる。そういう状況で今回のあおばフェスタがどうなるのかを見ていきたい。</p> <p>F) 地域の人にもっと来てもらいたいですが、駐車場が狭いために、「やっぱりいいです」ということもある。どこかないか。</p> <p>G) 稲刈りの時期終わっているから、農道にとめてもらってもいいけど…。</p> <p>H) あおばフェスタの時期について、開校当初は、区民祭りと一体化してあおばフェスタを開催し、周回するバスを出してお客さんを運ぶという夢を描いていた。駐車場を確保するだけでなく、人の流れをどう作るかという発想。区民祭りと開校記念を合わせてこの時期にした。ずらすとなると11月は結構どこもお祭りとかがあって、他の学校の文化祭と重ねたくないと思っていた。</p> <p>I) それぞれのテーマで相当な量があるのだが、今回は、それぞれの部会で進める。</p> <p>J) ここに出ているのを学校がやると考えると、とても大変。地域でやっているものが必ずあるはず。その交通整理が大事。学校が本当にやらなくてはならないことは何か。</p> <p>K) これまでの評議会は「後は学校でよろしく」ということが多かったが、ここの学校運営協議会はそうではない。それぞれは何ができるかを考えていくこと。</p> <p>(4) 休憩</p>
--	--

(5) 学校評価部会 協議

<学校評価 中間評価に関する意見交換及び協議>

副校長) 手元に資料があると思うが、今年の5月の協議会でたてた学校評価の中間評価になる。

<質疑応答>

L) 居住地交流の具体的な内容について知りたい。

職員) 本来だったら通うべき居住地の学校で、保護者の希望によって一般級または支援級で交流する。朝登校して一日過ごす児童生徒もいるが、多くは音楽や図工など参加しやすい授業に参加することが多い。内容は先方の学校の先生と相談しながら進めている。初回は教員も付き添うが、その後は保護者が付き添って行っている。

M) 先方の良い評価とか、交流することによってこんな教育的効果があったとかあるか。

職員) 相手校のご意見は聞けていないが、本校の子ども達は良い影響をうけている。交流後、近所のお友達が挨拶してくれたという話を保護者から聞くこともある。

N) うちの子どもは、本来通うべき小学校で年5回、一般級で居住地交流している。回数を重ねてきたことで名前も覚えてくれ、うちの子も「よろしくお願ひします」としっかり挨拶できるようになった。子ども達も成長してきて、出てくる質問が変わってきた。1年生のときは「なんで歩けないの?」「なんで車いすなの?」という姿形に関する質問だったが、3年生になると「どんな病気なの?」など障害に関する根本的な疑問が増えてきた。お互いを知る良い機会になっている。

O) 学校評価は3段階になっており、今回は先生達が自己評価した中間評価。これを年度末までに学校が結果を出されて、それを最後に関係者評価としてまとめるという流れになる。今回、丁寧に説明してくれたので、これを踏まえて後半の評価をしていく。

(6) その他

<人権が尊重された授業づくりについて>

副校長) 今年度、先生方一人ひとりにアンケートを行った。

アンケートは後期も実施予定。保護者アンケートにも反映し、保護者の見方と教員の見方を比較し検討していき

	<p>たい。</p> <p>P) 中間評価もアンケートの取組みもとても良かった。日頃、学校として意識して取り組んでいることが分かった。学部による数字の違いは、教育環境の違いもあるので、それほど違いはないと感じる。学校としては人権意識をもって一生懸命やっていることが感じられる。課題についても明確になっていて良かった。</p> <p>学校運営協議会で学校のことを知ってもらうとともに、先生達の頑張りを評価し、課題については一緒に考えて行けるとよい。</p> <p>Q) 保護者の立場から見て、個性豊かな子ども一人ひとりに対する対応はとても大変だと思う。先生達が一人ひとりのために対応してくれていることが分かる。先生達のできる範囲の中でこれからもお願いしたいと思う。</p> <p><まとめ></p> <p>校長) 長時間の協議に感謝。熟議のこと、学校評価について、協議していただいた。</p> <p>次回、12月に部会を実施。できたら警察の方も来ていただいで協議出来たらと思う。</p> <p>学校評価部会については、今年の大きなテーマである個別教育計画の書式の見直しについて、次年度から使えるように進めていく予定。業務の精選についても検討していきたい。また、まとめのところでご意見をいただければと思う。</p> <p>R) 次回12月14日(木)午前中 前半：部会、後半：全体共有の流れで行う。</p> <p>校長) 福祉避難所、スクールゾーン協議会等について話し合いたい。必要と思われる方をお呼びしたい。どなたを呼ぶかは今後検討する。</p> <p>S) 今日は、充実した内容で話し合えた。次回は部会でさらに深めていきたい。</p> <p>副校長) それでは、これで第3回学校運営協議会を終了する。</p>
--	--